

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	木管楽器修理概論Ⅱ	授業形態 / 必・選	講義	必修
授業時間	90分(1単位時間45分)	年次	2年次	
	年間授業数	18回(36単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	管楽器リペアコース、管楽器／打楽器コース			
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☐ 非該当 ☒			
担当講師 実務経歴				
授業概要				
基礎的な調整を理解したうえでの、実践方法、作業手順の組み立て、考え方などの応用法を、講師による修理実演や動画も使用して解説。				
到達目標				
どんな状況でも修理対応ができる基礎力と、さまざまな楽器への応用力の修得。				

授業計画・内容	
【前期】 1～2回目	フルート/クラリネット 連動調整1 木管楽器 連動・バランス調整
【前期】 3～4回目	フルート/クラリネット 連動調整2 クラリネット レジスターキータンポ交換、リング高さ調整
【前期】 5～6回目	バネ交換・調整、作動不良調整
【前期】 7～9回目	フルート アゴ調整、ラックタンポ交換、ヘッドコルク交換、調整ネジ 吹奏検品
【前期】 10～13回目	サククス 連動調整、ネックコルク交換
【前期】 14～15回目	フルート キーコルク交換、ノックピン調整、リングキータンポ交換
【前期】 16～17回目	木管楽器 作動調整
【後期】 1回目	ダブルリード調整
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	常にその楽器をイメージすることと、他楽器での応用までを考えて取り組むこと。修理が必要な楽器の状態はさまざま、短時間で判断して作業工程を組み立てる必要があるため、管楽器リペア実習とともに繰り返し考察することが大切である。
使用教科書	講義ごとにテキスト配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	金管楽器修理概論Ⅱ	授業形態 / 必・選	講義	必修
授業時間	90分(1単位時間45分)	年次	2年次	
	年間授業数	8回(16単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	管楽器リペアコース、管楽器／打楽器コース			
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☐ 非該当 ☒			
担当講師 実務経歴				
授業概要				
基礎的な調整を理解したうえでの、実践方法、作業手順の組み立て、考え方などの応用法を、講師による修理実演や動画も使用して解説。				
到達目標				
どんな状況でも修理対応ができる基礎力とさまざまな楽器への応用力の修得。				

授業計画・内容	
【前期】 1回目	ハンダ付け セッティング、マウスパイプ交換
【前期】 2～4回目	ヘコ出し
【前期】 5回目	ホルン ストッパー交換
【前期】 6回目	トロンボーンスライド停止帯コルク交換
【後期】 1回目	固着修理
【後期】 2回目	トロンボーンスライド調整
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	常にその楽器をイメージすることと、他楽器での応用までを考えて取り組むこと。修理が必要な楽器の状態はさまざまで、短時間で判断して作業工程を組み立てる必要があるため、管楽器リペア実習とともに繰り返し考察することが大切である。
使用教科書	講義ごとにテキスト配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	管楽器商品知識Ⅱ		授業形態 / 必・選	講義	必修
			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	16回(32単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	管楽器リペアコース、管楽器／打楽器コース、ピアノ／管楽器コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☐ 非該当 ☒				
担当講師 実務経歴					
授業概要					
ホルン・トロンボーン・ユーフォニウム・チューバ・オーボエ・ファゴット・マーチングブラス・アクセサリーの楽器・製品解説。					
到達目標					
楽器の特徴・メカニズム・システムから、メーカーごとの特徴・売りなど、販売修理知識の修得。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	ホルン概要・製品解説
【前期】 5～8回目	トロンボーン概要・製品解説
【後期】 1回目	ユーフォニウム概要・製品解説
【後期】 2～3回目	チューバ概要・製品解説
【後期】 4～5回目	オーボエ概要・製品解説
【後期】 6回目	ファゴット概要・製品解説
【後期】 7回目	マーチングブラス概要・製品解説
【後期】 8回目	アクセサリー製品解説
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	異なる楽器でもその特徴などは類似する点が多いので、常に関連付けて考えられるように取り組むこと。講義だけでは活きた情報にはならないので、自ら楽器店などでその製品の特長などを観察・試奏することも重要になる。
使用教科書	「管楽器価格一覧表」ミュージックトレード社、「カラー図鑑 楽器の歴史」河出書房新社、各メーカーカタログ、資料配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学販商品知識		授業形態 / 必・選	講義	必修
			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	8回(16単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	管楽器／打楽器コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☐ 非該当 ☒				
担当講師 実務経歴					
授業概要					
各楽器の歴史・種類・名称・メカニズム・材質からメーカーの歴史・特徴・主要機種・定番機種などを学ぶ。					
到達目標					
学校販売で扱う教育楽器等のうち、管楽器以外の楽器についての販売知識の修得。					

授業計画・内容	
【前期】 1回目	リコーダー概要・製品解説 ハーモニカ概要・製品解説
【前期】 2回目	鍵盤ハーモニカ概要・製品解説 アコーディオン概要・製品解説
【前期】 3回目	和楽器概要・製品解説 電子楽器概要・製品解説
【前期】 4～5回目	ピアノ概要・製品解説
【前期】 6回目	バイオリン概要・製品解説
【前期】 7～8回目	ギター概要・製品解説
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	楽器店での販売営業、外販営業知識として学ぶが、単に知識としてだけではなく、顧客にとって最良の商品をいかに勧めるか、その選択肢を提示するかをイメージして取り組むこと。
使用教科書	講義ごとにテキスト配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	打楽器基礎知識		授業形態 / 必・選	講義	必修
			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	9回(18単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	管楽器／打楽器コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☐ 非該当 ☒				
担当講師 実務経歴					
授業概要					
各打楽器の歴史・種類・名称・メカニズム・材質からメーカーの歴史・特徴・主要機種・定番機種などを学ぶ。					
到達目標					
打楽器販売における基礎知識の修得。					

授業計画・内容	
【前期】 1回目	ドラムパーツの名称 ティンパニ概要と詳細
【前期】 2回目	コンサートバスドラム概要と詳細
【前期】 3回目	シンバル概要と詳細
【前期】 4回目	ドラムセット概要・構成と詳細
【前期】 5回目	エレクトリックドラム概要と詳細 スティック概要と詳細
【前期】 6～7回目	音板打楽器概要と詳細 マレット概要と詳細
【前期】 8回目	マーチングパーカッション概要と詳細
【前期】 9回目	ラテンパーカッション概要と詳細
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	数多く存在する打楽器の種類、音色に興味を持ち、日ごろから打楽器に触れる機会を増やし、カタログ収集などを進んで行うことがより理解を深める。
使用教科書	講義ごとに適宜テキスト配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	打楽器調整		授業形態 / 必・選	実習	必修
			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	22回(44単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	管楽器／打楽器コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☐ 非該当 ☒				
担当講師 実務経歴					
授業概要					
スネアドラム・バスドラム・ドラムセット・ティンパニ・マリンバ・ビブラフォンなどの基本的な取り扱い方とパーツ交換などのメンテナンス(修理)方法の実践。					
到達目標					
楽器ごとの作業(修理)方法の修得。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	リズムトレーニング
【後期】 1～3回目	スネアドラムヘッド交換 スネアドラム分解・組立
【後期】 4回目	ビブラフォン分解・組立
【後期】 5回目	マリンバ分解・組立
【後期】 6～7回目	ティンパニヘッド交換
【後期】 8回目	バスドラムヘッド交換
【後期】 9回目	ラテン打楽器調整・奏法
【後期】 10回目	ドラムセッティング・奏法
【後期】 11～12回目	シンバル手革交換 マレットリペア
【後期】 13～14回目	調整復習
【後期】 15～19回目	リズムトレーニング
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	数多く存在する打楽器の種類、音色、奏法に興味を持つことが重要。基本的な奏法を学び、音色に注意を傾けることも重要になる。実際に取り扱う楽器は主に吹奏楽において必要とされるものが中心となる。
使用教科書	課題ごとに適宜テキスト配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	木管楽器リペアⅡ-B		授業形態 / 必・選	実習	必修
			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	183回(366単位時間)	年間単位数	12単位
科目設置学科コース	管楽器／打楽器コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験 13年 都内の楽器店に勤務後、修理工房を独立開業。現在に至る。				
授業概要					
フルート・クラリネット・サックスの修理方法の実践。					
到達目標					
1年次の基礎を元に、より早く、より正確に楽器調整を完了させる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～117回目 【後期】 1～66回目	フルート:タンポ交換調整・連動調整・バランス調整・ヘッドコルク交換 キコルク交換・バネ調整・パーツ交換 (70回)
	クラリネット:タンポ交換調整・連動調整・バランス調整・ジョイントコルク交換 バネ調整・パーツ交換 (70回)
	サックス:タンポ交換調整・連動調整・バランス調整・ネックコルク交換 バネ調整・パーツ交換 (43回)
	オーボエ:基礎奏法(選択)
備考	楽器ごとの実習班に分かれた作業のため、履修楽器が順番に代わる。
評価方法	学期末の課題提出の仕上がり状況と修理過程を加味した技術点評価、及び平常点 (授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	繰り返し作業をするが、故障の状況に応じた課題以外の修理を行う場合もある。単に 課題を終わらせるのではなく、実際の業務をイメージしてより正確に、早く作業を進め ることをめざし、自ら進んで考えることで応用力を養うことは大切である。
使用教科書	「木管楽器修理概論Ⅱ」「金管楽器修理概論Ⅱ」と同様

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	金管楽器リペアⅡ-B	授業形態 / 必・選	実習	必修	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	32回(64単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	管楽器／打楽器コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験 13年 都内の楽器店に勤務後、修理工房を独立開業。現在に至る。				
授業概要					
フルート・クラリネット・サックス・トランペット・トロンボーン・ホルンの修理方法の実践。					
到達目標					
1年次の基礎を元に、より早く、より正確に楽器調整を完了させる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～16回目 【後期】 1～16回目	トランペット:ハンダ付け・拔差管調整・ピストンバルブ調整・パーツ交換 (16回)
	トロンボーン:スライド停止帯交換・スライド調整・パーツ交換 (8回)
	ホルン:ロータリーバルブ調整・拔差管調整・パーツ交換 (4回)
	金管楽器:ヘコ出し (4回)
備考	楽器ごとの実習班に分かれた作業のため、履修楽器が順番に代わる。また、トロンボーンの基礎奏法の履修も含む。
評価方法	学期末の課題提出の仕上がり状況と修理過程を加味した技術点評価、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	繰り返し作業をするが、故障の状況に応じた課題以外の修理を行う場合もある。単に課題を終わらせるのではなく、実際の業務をイメージしてより正確に、早く作業を進めることをめざし、自ら進んで考えることで応用力を養うことは大切である。
使用教科書	「木管楽器修理概論Ⅱ」「金管楽器修理概論Ⅱ」と同様

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	管楽器選択リペア	授業形態 / 必・選	実習	必修	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	76回(152単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	管楽器リペアコース、管楽器／打楽器コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目				
	該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験 13年 都内の楽器店に勤務後、修理工房を独立開業。現在に至る。				
授業概要					
内容は原則として木管楽器リペア実習Ⅱ、金管楽器リペア実習Ⅱに準ずる。 各自が任意の修理作業を選択し、修理技術の向上を追求する。					
到達目標					
楽器修理各作業の方法・意味の理解、作業の精度・速度の向上。					

授業計画・内容	
【後期】 1～76回目	木管楽器リペア フルート タンポ交換調整・連動調整・バランス調整・ヘッドコルク交換・キコルク交換・バネ調整・パーツ交換
	木管楽器リペア クラリネット タンポ交換調整・連動調整・バランス調整・ジョイントコルク交換・バネ調整・パーツ交換
	木管楽器リペア サックス タンポ交換調整・連動調整・バランス調整・ネックコルク交換・バネ調整・パーツ交換
	金管楽器リペア トランペット ハンダ付け・拔差管調整・パーツ交換
	金管楽器リペア トロンボーン スライド停止帯交換・スライド調整・パーツ交換
	金管楽器リペア ホルン ロータリー調整・拔差管調整・パーツ交換
	金管楽器リペア ヘコ出し
その他 金属加工、ダブルリード楽器修理	
備考	履修期間内で、任意の課題を選択する。
評価方法	学期末の課題提出の仕上がり状況と修理過程を加味した技術点評価、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	繰り返し作業をするが、故障の状況に応じた課題以外の修理を行う場合もある。
使用教科書	「木管楽器修理概論Ⅱ」「金管楽器修理概論Ⅱ」と同様

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	管楽器業界演習Ⅱ	授業形態 / 必・選	演習	必修	
		年次	2年次		
授業時間	180分(1単位時間45分)	年間授業数	7回(28単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	管楽器リペアコース、管楽器／打楽器コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☐ 非該当 ☒				
担当講師 実務経歴					
授業概要					
楽器業界の企業による製品・技術セミナーや学園祭での接客演習、リクルートセミナー					
到達目標					
楽器の専門知識の実践と、実際の応用方法を理解する					

授業計画・内容	
【前期】 1～2回目	楽器業界の企業による製品・技術セミナー①②
【後期】 1～2回目	学園祭：準備日①②
【後期】 3～4回目	学園祭：出店での接客実演とリペア実演①②
【後期】 5回目	学園祭：片付け、原状回復
評価方法	平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	実際に仕事を体験することで、進路に対しての興味を持ち積極的な行動ができるよう努めること。
使用教科書	適宜資料配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択修理Ⅱ-A		授業形態 / 必・選	実習	選択
			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	21回(42単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	管楽器リペアコース、管楽器／打楽器コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験 13年 都内の楽器店に勤務後、修理工房を独立開業。現在に至る。				
授業概要					
内容は原則として管楽器リペア実習Ⅱに準ずる。					
到達目標					
楽器修理各作業の方法・意味の理解、作業の精度・速度の向上。					

授業計画・内容	
【前期】or【後期】 1～21回目	木管楽器リペア フルート タンポ交換調整・連動調整・バランス調整・ヘッドコルク交換・キコルク交換・バネ調整・パーツ交換
	木管楽器リペア クラリネット タンポ交換調整・連動調整・バランス調整・ジョイントコルク交換・バネ調整・パーツ交換
	木管楽器リペア サックス タンポ交換調整・連動調整・バランス調整・ネックコルク交換・バネ調整・パーツ交換
	金管楽器リペア トランペット ハンダ付け・拔差管調整・パーツ交換
	金管楽器リペア トロンボーン スライド停止帯交換・スライド調整・パーツ交換
	金管楽器リペア ホルン ロータリー調整・拔差管調整・パーツ交換
	金管楽器リペア ヘコ出し
備考	木管楽器リペア実習Ⅱ、金管楽器リペア実習Ⅱと連動した授業のため、その履修時期により楽器ごとの実習班に分かれる。授業内容は順番に入れ替わる。
評価方法	学期末の課題提出の仕上がり状況と修理過程を加味した技術点評価、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	繰り返し作業をするが、故障の状況に応じた課題以外の修理を行う場合もある。アンサンプルとの選択授業も含む。
使用教科書	「木管楽器修理概論Ⅱ」「金管楽器修理概論Ⅱ」と同様

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択修理Ⅱ-B	授業形態 / 必・選	実習	選択	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	42回(84単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	管楽器リペアコース、管楽器／打楽器コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験 13年 都内の楽器店に勤務後、修理工房を独立開業。現在に至る。				
授業概要					
内容は原則として管楽器リペア実習Ⅱに準ずる。					
到達目標					
楽器修理各作業の方法・意味の理解、作業の精度・速度の向上。					

授業計画・内容	
【前期】and【後期】 1～21回目	木管楽器リペア フルート タンポ交換調整・連動調整・バランス調整・ヘッドコルク交換・キコルク交換・バネ調整・パーツ交換
	木管楽器リペア クラリネット タンポ交換調整・連動調整・バランス調整・ジョイントコルク交換・バネ調整・パーツ交換
	木管楽器リペア サックス タンポ交換調整・連動調整・バランス調整・ネックコルク交換・バネ調整・パーツ交換
	金管楽器リペア トランペット ハンダ付け・拔差管調整・パーツ交換
	金管楽器リペア トロンボーン スライド停止帯交換・スライド調整・パーツ交換
備考	金管楽器リペア ホルン ロータリー調整・拔差管調整・パーツ交換
	金管楽器リペア ヘコ出し
	木管楽器リペア実習Ⅱ、金管楽器リペア実習Ⅱと連動した授業のため、その履修時期により楽器ごとの実習班に分かれる。授業内容は順番に入れ替わる。
評価方法	学期末の課題提出の仕上がり状況と修理過程を加味した技術点評価、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	繰り返し作業をするが、故障の状況に応じた課題以外の修理を行う場合もある。アンサンプルとの選択授業も含む。
使用教科書	「木管楽器修理概論Ⅱ」「金管楽器修理概論Ⅱ」と同様

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	アンサンブルⅡ-A	授業形態 / 必・選	実習	選択	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	21回(42単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	管楽器リペアコース、管楽器／打楽器コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験 34年 アンサンブルなどのメンバーとして活動のほか、大学や高校の講師としても活動。				
授業概要					
吹奏楽、ビッグバンド、室内楽からそれぞれの楽曲について合奏する。					
到達目標					
音色やリズムの作り方、音楽の組み立て方の研究、楽器の演奏技術向上					

授業計画・内容	
【前期】or【後期】 1～20回目	ウインドアンサンブル 吹奏楽曲の合奏 ・基礎向上(メロディー、ハーモニー、スケール) ・楽曲を決め、アンサンブルの練習 ・ジャンルによるリズムの取り方、吹き方の練習 ・楽曲にあった音色の作り方の練習
	室内楽 室内楽アンサンブル楽曲の合奏 ・基礎向上(メロディー、ハーモニー、スケール) ・楽曲を決め、アンサンブルの練習 ・ジャンルによるリズムの取り方、吹き方の練習 ・楽曲にあった音色の作り方の練習
	ビッグバンドアンサンブル ビッグバンド楽曲の合奏 ・楽器編成と簡単な歴史について学習 ・各楽器で基本となるジャズの吹き方の練習 ・音程やリズムの練習 ・ブルーススケールを用いてのアドリブ練習 ・4、8、16、24、から1コーラスまでのアドリブ練習 ・楽曲練習
【前期】or【後期】 21回目	演奏会発表 前期末、または後期末にアンサンブルの練習成果を発表する。
備考	前期、または後期に上記3分野を選択することができる。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	1年、2年の合同授業。合奏が授業の中心になるため、協調性を持って取り組み、欠席しないように努力すること。決まった楽曲は合奏までに個人練習をすること。
使用教科書	ティップス、3D、別紙譜面を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	アンサンブルⅡ-B	授業形態 / 必・選	実習	選択	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	42回(84単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	管楽器リペアコース、管楽器／打楽器コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験 34年 アンサンブルなどのメンバーとして活動のほか、大学や高校の講師としても活動。				
授業概要					
吹奏楽、ビッグバンド、室内楽からそれぞれの楽曲について合奏する。					
到達目標					
音色やリズムの作り方、音楽の組み立て方の研究、楽器の演奏技術向上					

授業計画・内容	
【前期】and【後期】 1～20回目	ウインドアンサンブル 吹奏楽曲の合奏 ・基礎向上(メロディー、ハーモニー、スケール) ・楽曲を決め、アンサンブルの練習 ・ジャンルによるリズムの取り方、吹き方の練習 ・楽曲にあった音色の作り方の練習
	室内楽 室内楽アンサンブル楽曲の合奏 ・基礎向上(メロディー、ハーモニー、スケール) ・楽曲を決め、アンサンブルの練習 ・ジャンルによるリズムの取り方、吹き方の練習 ・楽曲にあった音色の作り方の練習
	ビッグバンドアンサンブル ビッグバンド楽曲の合奏 ・楽器編成と簡単な歴史について学習 ・各楽器で基本となるジャズの吹き方の練習 ・音程やリズムの練習 ・ブルーススケールを用いてのアドリブ練習 ・4、8、16、24、から1コーラスまでのアドリブ練習 ・楽曲練習
【前期】and【後期】 21回目	演奏会発表 前期末、後期末にアンサンブルの練習成果を発表する。
備考	学期ごとに上記3分野を選択することができる。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	1年、2年の合同授業。合奏が授業の中心になるため、協調性を持って取り組み、欠席しないように努力すること。決まった楽曲は合奏までに個人練習をすること。
使用教科書	ティップス、3D、別紙譜面を配布